

北海道浮魚ニュース

平成26（2014）年度5号

2014年 6月 16日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎スルメイカ漁場一斉調査結果（道南太平洋海域）

6月中旬現在、太平洋側のスルメイカ北上群は道南太平洋にはまだ来遊していない。

調査船北辰丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。なお、同じ航海中に行われた道東太平洋分の調査結果については浮魚ニュース第4号を参照下さい。

- ・調査期間：2014年6月9日～12日（道東太平洋調査と連続）
- ・調査海域：道南太平洋
- ・調査船：北辰丸（216 t、イカ釣機6台装備）

1. 水温分布

今年と昨年水温分布及び漁獲調査の結果を、図1及び図2に示しました。

漁獲調査点3点の表面水温は6.9～12.0℃、同じく漁獲調査点3点の50m水深の水温は2.5～10.5℃で、いずれも昨年を下回りました。図中に等温線を示した50m水深の水温は昨年より低く、渡島太平洋から日高沿岸にかけてのほとんどの海域で水温1～2℃台の非常な低水温となっていました。

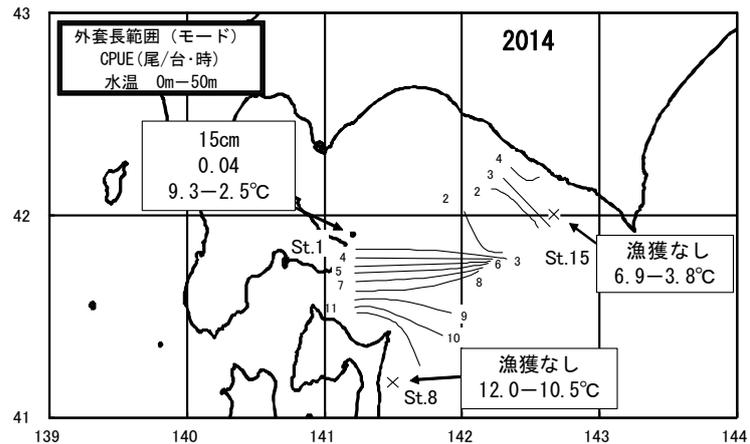


図1 2014年度の漁獲調査結果と水温（6月9～12日）

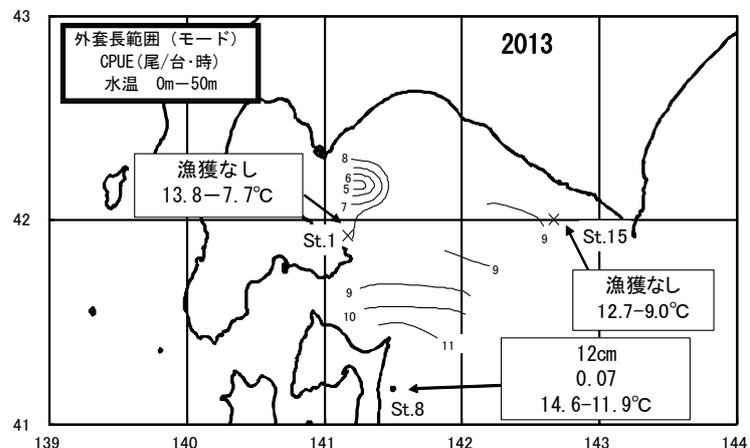


図2 2013年度の漁獲調査結果と水温（6月10～13日）

●は漁獲調査点を示し面積はCPUEに比例。×は漁獲なし。等温線は50m水深の水温分布

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋6月）のCPUEと外套長の経年変化

2010年より調査船及び調査日程を変更

CPUE(尾/台・時間)	2005 6/20-24	2006 6/19-23	2007 6/25-29	2008 6/26-30	2009 6/24-26	2010 6/14-17	2011 6/14-17	2012 6/6-9	2013 6/10-13	2014 6/9-12
St.1(木直沖)	0.1	0	10.5	62.0	0	0.03	0	0	0	0.04
St.8(下北半島東沖)	0	0.1	4.5	17.7	23.8	0.34	0.2	0	0.07	0
St.15(浦河沖)	0	0	18.1	0	-	0	0	0	0	0
St.16(函館沖)	3.9	6.1	24.2	3.6	-					
旧調査点4点平均CPUE	1.0	1.6	14.3	20.8	11.9					
St.1, 8, 15平均CPUE	0.03	0.03	11.0	26.6	11.9	0.13	0.07	0	0.02	0.01
外套長の範囲(cm)	12-17	12-17	10-21	11-18	15-21	8-12	11-17	-	12	15
外套長モード範囲(cm)	14	15	16-17	14-15	18	8, 11	12	-	12	15

2. 分布密度及び魚体サイズ

2005年から2014年までの10年間の調査点別CPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）を表1に示しました。なお、2010年以降の北辰丸による調査は、2002～2009年の金星丸による調査に比べ1～2週間早い時期に行われています。

調査点3点のCPUE（釣機1台1時間あたり漁獲尾数）の平均は0.01で昨年（0.02）を下回り、漁獲がなかった2012年に次いで過去2番目に低い値でした。今回の漁獲調査点3点のうち、漁獲が見られたのは木直沖 St.1のみで、6月中旬現在、太平洋側のスルメイカ北上群は道南太平洋にはまだ来遊していないと思われることから、今後しばらくはこの海域にはスルメイカの漁場は形成されず、日本海側が道南での主なスルメイカ漁場になると予想されます。

調査中漁獲されたスルメイカ1尾の外套背長は15cmでした。

（函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）

※函館水試は6月より函館市国際水産・海洋総合研究センター（函館市弁天町 20-5）内に移転しました